

株 主 各 位

第118期 連結計算書類の連結注記表

第118期 計算書類の個別注記表

(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)

株式会社ジェイテクト

上記の事項につきましては、法令及び当社定款第14条に基づき、インターネット上の当社ウェブサイト (<https://www.jtekt.co.jp>) に掲載することにより、株主の皆様を提供しております。

連結注記表

1. 連結計算書類作成のための基本となる重要な事項

(1) 連結の範囲に関する事項

①連結子会社の数 149社

主要な連結子会社については「第118期 事業報告」の「**1**当社グループの現況に関する事項 8. 重要な子会社の状況」に記載のとおりであります。

②非連結子会社

株式会社ジェイテクトIT開発センター秋田 他

非連結子会社について連結の範囲から除外した理由

非連結子会社の総資産、売上高、当期純損益及び利益剰余金等は、いずれも連結計算書類に重要な影響を及ぼしておりませんので、連結の範囲から除外しております。

(2) 持分法の適用に関する事項

①持分法適用会社の数 17社

主要な持分法適用会社は、三井精機工業株式会社であります。

②持分法を適用していない主要な非連結子会社及び関連会社

(非連結子会社) 株式会社ジェイテクトIT開発センター秋田 他

(関連会社) 東京エッチ・アイ・シー株式会社 他

非連結子会社及び関連会社について持分法を適用しない理由

持分法非適用会社は、当期純損益及び利益剰余金等からみて、持分法の対象から除いても連結計算書類に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。

(3) 連結の範囲及び持分法適用の異動状況に関する事項

①連結子会社

重要性の増加による新規連結 4社

盟壹和(上海)商貿有限公司、台湾捷太格特股份有限公司、PT. JTEKT INDONESIA SALES、KOYO JOINT MEXICO, S. A. DE C. V.

持分の追加取得による新規連結 16社

SONA KOYO STEERING SYSTEMS LTD. (平成30年4月7日付でJTEKT INDIA LTD. へ社名変更)、

SONA FUJI KIKO AUTOMOTIVES LTD.、富士機工株式会社、FUJI AUTOTECH FRANCE S. A. S.、

広州常富機械工業有限公司、FUJI AUTOTECH (THAILAND) CO., LTD.、FUJI KOYO CZECH S. R. O.、

協富光洋(厦門)機械工業有限公司 他

解散による除外 1社

日本エーイーシー株式会社

合併による除外 1社

株式会社CNKエンジニアリング

②持分法適用会社

持分の追加取得による追加 1社

常裕富士機工股份有限公司

連結子会社への異動による除外 4社

SONA KOYO STEERING SYSTEMS LTD. (平成30年4月7日付でJTEKT INDIA LTD. へ社名変更)、

富士機工株式会社、FUJI KOYO CZECH S. R. O.、協富光洋(厦門)機械工業有限公司

(4) 連結子会社の事業年度等に関する事項

一部の連結子会社の決算日は12月31日であるため、連結決算日との間に生じた主要取引の調整を行っております。

(5) 会計方針に関する事項

①重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券のうち、時価のあるものについては、連結決算日の市場価格に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）で、時価のないものについては、移動平均法による原価法であります。

デリバティブは時価法であります。

棚卸資産は主として総平均法による原価法（収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）であります。

ただし、工作機械等の製品及び仕掛品については個別法による原価法（収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）を採用しております。

②重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く）……………主として定率法

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

無形固定資産（リース資産を除く）……………定額法

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

リース資産……………所有権移転外のファイナンス・リース取引に係るリース資産は、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零として算定する定額法によっております。

③重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

期末現在に有する債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

役員賞与引当金

当社及び一部の子会社は、役員賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

製品保証引当金

当社及び一部の子会社は、製品納入後に発生する製品保証費用の支出に充てるため、過去の実績を基礎にして当期に対応する発生予想額を計上しております。

役員退職慰労引当金

当社の一部の子会社は、役員退職慰労金の支出に備えるため、役員退職慰労金規程に基づく期末要支給額を計上しております。

環境対策引当金

当社及び一部の子会社は、建物及び設備等に使用されているアスベスト及びポリ塩化ビフェニル（PCB）の除去、処分等に係る支出に備えるため、今後発生すると見込まれる費用を計上しております。

④のれんの償却方法及び償却期間

20年以内の期間で均等償却を行っております。

⑤退職給付に係る会計処理の方法

従業員の退職給付に備えるため、期末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当期末において発生していると認められる額を計上しております。

・退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当期までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

・数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（主として10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌連結会計年度から費用処理しております。

過去勤務費用については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（主として10年）による定額法により費用処理しております。

また、一部の子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

⑥重要なヘッジ会計の方法

(a) ヘッジ会計の方法

振当処理の要件を満たしている為替予約については振当処理を、特例処理の要件を満たしている金利スワップについては特例処理を行っております。

(b) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段…先物為替予約取引及び金利スワップ取引

ヘッジ対象…外貨建金銭債権債務及び変動金利の借入金利息

(c) ヘッジ方針

市場相場変動に伴うリスクの軽減を目的として利用する方針であります。

(d) ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ手段及びヘッジ対象に関する重要な条件が同一であり、かつ相場変動又はキャッシュ・フロー変動リスクを完全に相殺するものと想定されるため、有効性の判定は省略しております。

⑦消費税等の会計処理

税抜方式

2. 連結貸借対照表に関する注記

(1) 有形固定資産の減価償却累計額		904,354百万円
(2) 担保に供している資産		
	建物及び構築物	316百万円
	機械装置及び運搬具	331百万円
	土地	937百万円
担保に係る債務の金額		
	短期借入金	300百万円
	一年以内返済長期借入金	224百万円
	長期借入金	47百万円
(3) 受取手形裏書譲渡高		232百万円

3. 連結株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 発行済株式の総数に関する事項

株式の種類	普通株式
当期首株式数	343,286,307株
当期増加株式数	－株
当期減少株式数	－株
当期末株式数	343,286,307株

(2) 剰余金の配当に関する事項

①配当金の支払額

平成29年6月28日開催の第117回定時株主総会による配当に関する事項

配当金の総額	7,203,303,975円
1株当たり配当金	21円
基準日	平成29年3月31日
効力発生日	平成29年6月29日

平成29年10月31日開催の取締役会による配当に関する事項

配当金の総額	7,203,285,789円
1株当たり配当金	21円
基準日	平成29年9月30日
効力発生日	平成29年11月30日

②基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

平成30年6月27日開催の第118回定時株主総会において、次のとおり決議を予定しております。

配当金の総額	7,546,264,858円
1株当たり配当金	22円
基準日	平成30年3月31日
効力発生日	平成30年6月28日

なお、配当原資につきましては、利益剰余金とすることを予定しております。

4. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

当社グループは、資金運用については安全性の高い金融資産に限定しております。また、資金調達については金融機関からの借入や社債の発行等によっております。

営業債権は、顧客の信用リスクに晒されておりますが、社内の管理規程に従い相手先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、取引先の信用状況を把握する体制としております。また、外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクに晒されておりますが、為替予約取引を利用してリスクの低減を図っております。また、投資有価証券は主として取引先の株式であり、上場株式については四半期ごとに時価の把握を行っております。

営業債務は、ほとんどが4ヶ月以内の支払期日であります。

借入金、社債の用途は運転資金及び設備投資資金であり、一部の長期借入金の金利変動リスクに対して金利スワップ取引を実施して支払利息の固定化を実施しております。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

平成30年3月31日（当期の連結決算日）における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

（単位 百万円）

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	135,104	135,104	－
(2) 受取手形及び売掛金	285,989	285,989	－
(3) 有価証券及び投資有価証券			
その他有価証券	70,159	70,159	－
(4) 支払手形及び買掛金	215,619	215,619	－
(5) 短期借入金	30,084	30,084	－
(6) 社債	60,000	60,183	183
(7) 長期借入金	184,600	186,367	1,766

（注） 1. 金融商品の時価の算定方法

(1) 現金及び預金、並びに(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、譲渡性預金（有価証券）は短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

- (4) 支払手形及び買掛金、並びに(5) 短期借入金
これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。
 - (6) 社債
これらの時価について、元利金の合計額を当該社債の残存期間及び信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定しております。
 - (7) 長期借入金
これらの時価について、元利金の合計額を当該借入金の残存期間及び信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定しております。
2. 非上場株式（連結貸借対照表計上額24,306百万円）は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3) 有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。

5. 賃貸等不動産に関する注記

重要性が乏しいため記載を省略しております。

6. 1株当たり情報に関する注記

- | | |
|----------------|-----------|
| (1) 1株当たり純資産額 | 1,554円11銭 |
| (2) 1株当たり当期純利益 | 144円90銭 |

7. 重要な後発事象に関する注記

該当事項はありません。

8. その他の注記

企業結合等に関する事項
取得による企業結合

1 SONA KOYO STEERING SYSTEMS LTD. (インド) (平成30年4月7日付でJTEKT INDIA LTD. へ社名変更)

当社は、持分法適用会社であるSONA KOYO STEERING SYSTEMS LTD. (インド)の株式について、筆頭株主であるSONA AUTOCOMP HOLDING LTD. (インド)が保有する株式を取得する売買契約及びインド公開買付規則の規定に従い実施した公開買付けにより、連結子会社化いたしました。

(1) 取引の概要

- ① 被取得企業の名称及び事業内容
名称：SONA KOYO STEERING SYSTEMS LTD.
事業の内容：ステアリング関連の部品の製造・販売サービス
- ② 企業結合を行った主な理由
当社とSONA KOYO STEERING SYSTEMS LTD. は、昭和60年に技術提携関係を結んで以来、インドでのステアリング事業における連携を進めてまいりました。本件によりSONA KOYO STEERING SYSTEMS LTD. との関係をさらに深化させ、スピーディなお客対応や、設計・調達・品質等の多方面でのグループ一体となった事業運営を実現することでお客様の期待に応え、より良い商品・サービスを提供してまいります。
- ③ 企業結合日
SONA AUTOCOMP HOLDING LTD. からの取得：平成29年5月18日(みなし取得日：平成29年6月30日)
公開買付けによる取得：平成29年6月23日(みなし取得日：平成29年6月30日)
- ④ 企業結合の法的形式
現金を対価とする取得
- ⑤ 結合後企業の名称
変更はありません。
- ⑥ 取得した議決権比率
企業結合直前に所有していた議決権比率：20.1%
SONA AUTOCOMP HOLDING LTD. から取得した議決権比率：25.1%
公開買付けにより取得した議決権比率：25.2%
取得後の議決権比率：70.4%
- ⑦ 取得企業を決定するに至った主な根拠
当社が現金を対価として、株式を取得したためであります。

(2) 連結財務諸表に含まれている被取得企業の業績の期間

平成29年7月1日から平成30年3月31日まで

(3) 取得原価の算定等に関する事項

- ① 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳
企業結合直前に所有していた普通株式の企業結合日における時価：6,054百万円
追加取得の対価現金：14,906百万円
取得原価：20,960百万円
- ② 被取得企業の取得原価と取得するに至った取引ごとの取得原価の合計額との差額
段階取得に係る差益：4,816百万円

- ③ 主要な取得関連費用の内容及び金額
アドバイザー等に対する報酬・手数料等：451百万円
- (4) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間
- ① 発生したのれん
7,033百万円
- ② 発生原因
今後の事業展開により期待される超過収益力であります。
- ③ 償却方法及び償却期間
20年間の均等償却
- (5) 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳
- | | |
|------|-----------|
| 流動資産 | 5,850百万円 |
| 固定資産 | 20,018百万円 |
| 資産合計 | 25,869百万円 |
| 流動負債 | 6,379百万円 |
| 固定負債 | 5,949百万円 |
| 負債合計 | 12,329百万円 |

2 富士機工株式会社

当社は、持分法適用会社である富士機工株式会社(以下「対象者」といいます。)の株式を取得し、当社の完全子会社とすることを目的として、金融商品取引法(昭和23年法律第25号)及び関係法令に基づき公開買付けを行い、平成29年12月21日をもって当社は対象者の特別支配株主となりました。なお、平成29年12月22日より会社法第179条第1項に基づく株式売渡請求を実施し、平成30年1月26日付で対象者を完全子会社としております。

(1) 取引の概要

- ① 被取得企業の名称及び事業内容
名称：富士機工株式会社
事業の内容：ステアリングコラム、パワートレイン部品等の製造・販売
- ② 企業結合を行った主な理由
当社は、当社グループ全体での競争力強化を図るため、グループ経営の推進による事業強化・経営合理化を目的とした諸施策について検討を行ってまいりました。本件により、両社のコラム事業の垂直統合を実現し、当社グループ全体として更なる収益基盤と事業競争力の強化が実現されるものと考えております。
- ③ 企業結合日
公開買付けによる取得：平成29年12月21日(みなし取得日：平成29年12月31日)
- ④ 企業結合の法的形式
現金を対価とする取得
- ⑤ 結合後企業の名称
変更はありません。
- ⑥ 取得した議決権比率
企業結合直前に所有していた議決権比率：33.5%
公開買付けにより取得した議決権比率：61.5%
取得後の議決権比率：95.0%
- ⑦ 取得企業を決定するに至った主な根拠
当社が現金を対価として、株式を取得したためであります。

(2) 連結財務諸表に含まれている被取得企業の業績の期間

平成30年1月1日から平成30年3月31日まで

(3) 取得原価の算定等に関する事項

- ① 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳
企業結合直前に所有していた普通株式の企業結合日における時価：13,106百万円
追加取得の対価現金：24,142百万円
取得原価：37,249百万円
- ② 被取得企業の取得原価と取得するに至った取引ごとの取得原価の合計額との差額
段階取得に係る差益：4,892百万円
- ③ 主要な取得関連費用の内容及び金額
アドバイザー等に対する報酬・手数料等：470百万円

(4) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

- ① 発生したのれん
1,469百万円
- ② 発生原因
今後の事業展開により期待される超過収益力であります。
- ③ 償却方法及び償却期間
5年間の均等償却

(5) 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	37,998百万円
固定資産	26,724百万円
資産合計	64,723百万円
流動負債	25,645百万円
固定負債	5,812百万円
負債合計	31,458百万円

個別注記表

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

貸借対照表及び損益計算書の作成に当たって採用した重要な会計処理の原則及び手続は次のとおりであります。

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法
 - 子会社株式及び関連会社株式……………移動平均法による原価法
 - その他有価証券
 - 時価のあるもの……………決算日の市場価格等に基づく時価法
(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)
 - 時価のないもの……………移動平均法による原価法
- (2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法
 - 総平均法による原価法（収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）
ただし、工作機械等の製品及び仕掛品については個別法による原価法（収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）を採用しております。
- (3) 固定資産の減価償却の方法
 - 有形固定資産（リース資産を除く）…定率法
ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。
 - 無形固定資産（リース資産を除く）…定額法
なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。
 - リース資産……………所有権移転外のファイナンス・リース取引に係るリース資産は、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零として算定する定額法によっております。
- (4) 引当金の計上基準
 - 貸倒引当金
期末現在に有する債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
 - 役員賞与引当金
役員への賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。
 - 製品保証引当金
製品納入後に発生する製品保証費用の支出に充てるため、過去の実績を基礎にして当期に対応する発生予想額を計上しております。
 - 関係会社支援損失引当金
債務超過にある関係会社の支援に伴う損失に備えるため、当該会社の財政状態等を勘案し、当社が負担することとなる損失見込額を計上しております。
 - 退職給付引当金
従業員の退職給付に備えるため、期末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当期末において発生していると認められる額を計上しております。
退職給付引当金及び退職給付費用の処理方法は以下のとおりであります。
 - ①退職給付見込額の期間帰属方法
退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当期までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。
 - ②数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法
数理計算上の差異については、各期の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年または15年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌期から費用処理しております。
過去勤務費用については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（3年）による定額法により費用処理しております。
未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の貸借対照表における取扱いが連結貸借対照表と異なります。
 - 環境対策引当金
建物及び設備等に使用されているアスベスト及びポリ塩化ビフェニル（PCB）の除去、処分等に係る支出に備えるため、今後発生すると見込まれる費用を計上しております。
- (5) ヘッジ会計の方法
 - ①ヘッジ会計の方法
振当処理の要件を満たしている為替予約については振当処理を、特例処理の要件を満たしている金利スワップについては特例処理を行っております。
 - ②ヘッジ手段とヘッジ対象
ヘッジ手段…先物為替予約取引及び金利スワップ取引
ヘッジ対象…外貨建金銭債権債務及び変動金利の借入金利息
 - ③ヘッジ方針
市場相場変動に伴うリスクの軽減を目的として利用する方針であります。

④ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ手段及びヘッジ対象に関する重要な条件が同一であり、かつ相場変動又はキャッシュ・フロー変動リスクを完全に相殺するものと想定されるため、有効性の判定は省略しております。

- (6) 消費税等の会計処理
税抜方式

2. 貸借対照表に関する注記

(1) 有形固定資産の減価償却累計額		443,455百万円
(2) 有形固定資産の圧縮記帳実施額	建 物	387百万円
	機 械 及 び 装 置	479百万円
	車 輛 運 搬 具	6百万円
	工 具 器 具 備 品	68百万円
(3) 関係会社に対する短期金銭債権		110,285百万円
関係会社に対する長期金銭債権		23,070百万円
関係会社に対する短期金銭債務		97,884百万円
(4) 保証債務		34,102百万円
保証予約		10,762百万円

3. 損益計算書に関する注記

関係会社との取引高

売 上 高	382,290百万円
仕 入 高	193,508百万円
営業取引以外の取引高	21,127百万円

4. 株主資本等変動計算書に関する注記

自己株式の株式数に関する事項

株式の種類	普通株式
当期首株式数	271,832株
当期増加株式数	2,456株
当期減少株式数	20株
当期末株式数	274,268株

(注) 自己株式の増加は、単元未満株式の買取りによるものであります。

5. 税効果会計に関する注記

繰延税金資産の発生の主な原因は、未払賞与・未払費用・製品保証引当金・退職給付引当金の否認、減価償却限度超過額等であります。

6. 関連当事者との取引に関する注記

名 称	関連当事者の総株主の議決権の総数に占める当社が有する議決権の割合 (%)	当社の総株主の議決権の総数に占める関連当事者が有する議決権の数の割合 (%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科 目	期末残高 (百万円)
トヨタ自動車株式会社	直接 0.1	直接 22.5 間接 0.2	関係会社	機械器具部品・工作機械等の販売 (注)1,2	228,968	売掛金	26,001
JTEKT NORTH AMERICA CORPORATION (アメリカ)	直接 100.0	—	子会社	機械器具部品等の販売 (注)1	20,612	売掛金	10,531
				資金の貸付 (注)3	16,178	長期貸付金	19,588
				利息の受取 (注)3	34		
債務の保証 (注)4	25,327	—	—				
				保証料の受取 (注)4	49		
JTEKT AUTOMOTIVE (THAILAND) CO., LTD. (タイ)	直接 95.0	—	子会社	余剰資金の受託 (注)5	14,590	預り金	22,644
				利息の支払 (注)5	211		
TOYODA MACHINERY EUROPE GMBH (ドイツ)	直接 97.7	—	子会社	資金の貸付 (注)3,6	451	その他流動資産	5,582
				利息の受取 (注)3	0		

(注) 取引条件及び取引条件の決定方針等

1. 上記取引については、市場価格、総原価を勘案して、每期価格交渉の上、決定しております。
2. 上記金額のうち、トヨタ自動車株式会社に対する取引金額は消費税等を含まず、期末残高は消費税等を含んで表示しております。

3. 金銭の貸付については、市場金利及び取引条件等を勘案して利率を合理的に決定しており、事業の運転資金として当社より直接貸付けております。なお、取引金額には期中の平均貸付高を記載しております。
4. 金融機関からの借入れに対して債務の保証を行ったものであり、保証料は一般的取引と同様に決定しております。
5. 受託の利率については、市場金利及び取引条件等を勘案して合理的に決定しております。なお、取引金額には期中の平均受託額を記載しております。
6. TOYODA MACHINERY EUROPE GMBH(ドイツ)へのその他流動資産(短期貸付金)に対し、3,438百万円の貸倒引当金を計上しております。また、当事業年度において同額の貸倒引当金繰入額を計上しております。

7. 1株当たり情報に関する注記

(1) 1株当たり純資産額	968円90銭
(2) 1株当たり当期純利益	64円18銭

8. 重要な後発事象に関する注記

該当事項はありません。